

【別紙様式3】

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	9	事業名	印旛村公共下水道事業		路線又は箇所名等		印旛処理区		
事業所管課		環境課			事業主体		印旛村		
事業化年度	昭和61年度	用地着手年度	—		工事着手年度	昭和61年度	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
					工事終了年度	平成53年度			
費用便益比 B/C	1.5	総費用	200億円	総便益	304億円	基準年	平成20年度	供用開始 年 度	昭和63年 度

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20)
処理区域面積	675ha	262ha	195ha
処理人口	17,830人	8,950人	7,040人
事業費	72億円	38億円	29億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画262haに対して195haを整備し、整備率は74%である。
処理場用地の取得状況	—
処理施設の供用状況	—
供用開始区域の接続状況	接続率は96%である。
地元情勢等	印旛村議会の理解及び地元住民の理解・協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特でない。
自然環境条件	水質汚濁に係る水質環境基準の新たな設定等、下水道事業に影響のある要因はない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

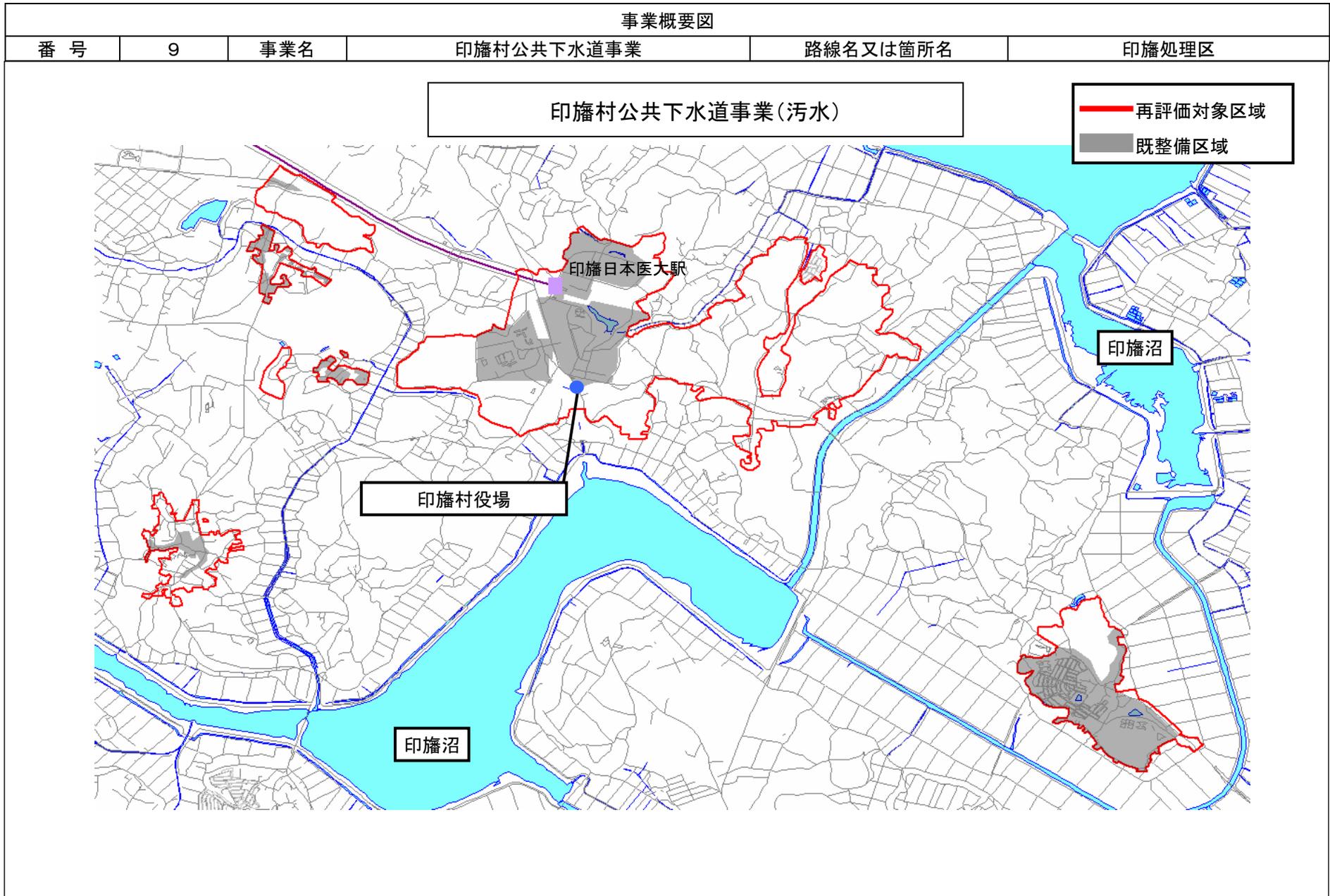
【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	本村の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

【対応方針(案)】

印旛村公共下水道事業は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を継続していく方針です。

【別紙様式 4】



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	9	事業名	印旛村公共下水道事業	路線又は箇所名等	印旛処理区	
事業化年度	昭和61年度	用地着手年度	—	工事着手年度	昭和61年度	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年度	供用開始 年度	昭和63年度	対応方針	継 続	
B/C	—	総費用	—	総便益	—	
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	151億円		26億円			
用地取得面積	—		—			
供用面積(延長)	675ha		180ha			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始 年度	昭和63年度	対応方針	継 続	
B/C	1.5	総費用	200億円	総便益	304億円	
現在の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	72億円		29億円			
用地取得面積	—		—			
供用面積(延長)	675ha		195ha			
再評価後の 経過及び 処理状況	再評価時から現在に至るまで、概ね順調に事業が進展している。					

【別紙様式3】

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	9	事業名	印旛村公共下水道事業		路線又は箇所名等		印旛本埜排水区他		
事業所管課		環境課			事業主体		印旛村		
事業化年度	昭和61年度	用地着手年度	—		工事着手年度	昭和61年度	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
					工事終了年度	平成34年度			
費用便益比 B/C	1.6~3.0	総費用	46億円	総便益	99億円	基準年	平成20年度	供用開始 年 度	昭和63年 度

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H29)	事業計画(完成予定年次:H22)	現況(H20)
排水区面積	194ha	151ha	110ha
事業費	47億円	36億円	26億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画151haに対して110haを整備し、整備率は73%である。
処理場用地の取得状況	—
処理施設の供用状況	—
供用開始区域の接続状況	—
地元情勢等	印旛村議会の理解及び地元住民の理解・協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	—
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

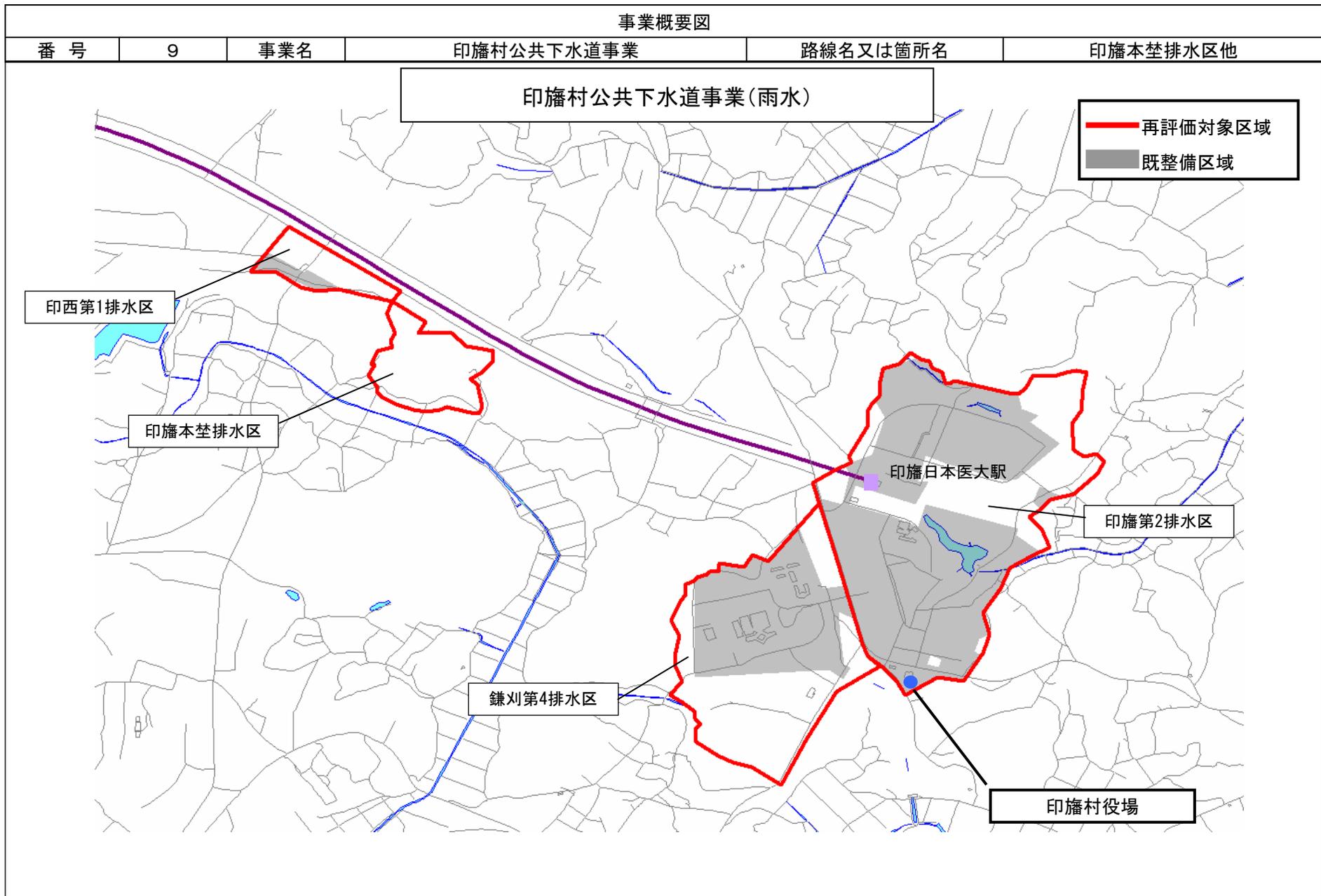
【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	—

【対応方針(案)】

印旛村公共下水道事業については、今後も引続き整備が必要であることから、当事業を継続していく方針です。

【別紙様式 4】



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	9	事業名	印旛村公共下水道事業	路線又は箇所名等	印旛本埜排水区他	
事業化年度	昭和61年度	用地着手年度	—	工事着手年度	昭和61年度	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年度	供用開始 年度	昭和63年度	対応方針	継 続	
B/C	—	総費用	—	総便益	—	
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		98億円	26億円			
用地取得面積		—	—			
供用面積(延長)		194ha	110ha			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始 年度	昭和63年度	対応方針	継 続	
B/C	1.6~3.0	総費用	46億円	総便益	99億円	
現在の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		47億円	26億円			
用地取得面積						
供用面積(延長)		194ha	110ha			
再評価後の 経過及び 処理状況	汚水先行で整備してきたが、今後、開発事業に合わせ、整備を図りたい。					